



カ

ジュアル化の流れのなかで、スーツ業界が苦戦しています。ある地方都市の老舗テーラーも、社員をリストラする必要に迫られました。

比較的大きな規模で経営していたその店には、ふたりの名物フィッターがいました。フィッターとは、採寸や仮縫いなどでお客様に直に接する人です。ひとりには、1ミリの狂いもなく採寸し、知識も地球上のすべてのスーツのことを知っているほど豊富、しかも品格もある。実は裁断も縫製もできるというテーラーの鑑のような人です。この人を項羽と呼びましょう。

もうひとりには、そもそも他業種から入ってきたということもあって、布を裁つことも縫うこともできない。スーツの知識はほどほどにはあるけれど、ひと昔前のナンセンス・ギャグの知識量

のほうがはるかに上回り、採寸中は延々とギャグで客を笑わせているという人です。こちらを、劉邦と呼びましょう。

スベック、家柄、能力、人品すべてにおいて圧倒的に優れていた項羽と、ぼつと出で何の能力があるのかさっぱりわからなかった劉邦、という中国の偉人にちなんだ仮名です。

経営者は、断腸の思いで、劉邦をリストラしました。店の今後を合理的に考えたつもりでした。劉邦は県境をまたぎ、別のテーラーに拾われて再就職しました。

8カ月後。なんと顧客は県境をまたいでこつそりと劉邦についていき、劉邦を雇ったテーラーは、新しい顧客まで獲得し、支店をつくるほどの隆盛を見せています。一方、「できる」項羽が残った店舗は、以前にもましてひっそりとしています。

これはいったいどういうことなのでしょうが？

今や既製でも美しいスーツが手に入る時代。しかも採寸となればテクノロジが正確にやってくれます。わざわざテーラーにスーツを作りに行く人は、機械的な完璧さよりもむしろ、人間的なユーモアや温かさを求めているのです。実際、直立して緊張しながら採寸されるよりも、採寸中に笑っているほうが自然で寛いだ身体になつており、結果として劉邦の採寸により作られたスーツのほうが優雅な仕上がりになっていたのでした。

資格、スベック、自分磨きで項羽を目指すよりも、ヒューマニティーを深く熱く広げていく劉邦のやり方で勝てる道がある。A1時代の近未来を生きるための重要な示唆をいただいたような一例でした。

Theme

項羽と劉邦

05 Lifestyle

男たちよ目覚めなさい

イラスト/ユリコフ・カワヒロ



カトリーヌ10世 Catherine X

Profile グローバル化が進む

社交界事情にも通じる。

密かな趣味は人間観察とコスプレ。

好きな飲み物はモンラッシュェ。

日本ではほとんど知られていない、

ある小国の女王とのウワサも!?